

臨床薬理センター

1. 臨床医学教育の現状と評価

(1) 臨床医学教育の目標

- 1) 薬物治療の基本を学ぶ。
- 2) 身体的のみならず、心理社会的側面を含む全人的アプローチによる治療法を身につける。

(2) 医員、医員（研修医）の現状と研修実績

1) 初期研修医の現状について

a. 研修実績について（対象期間：平成9年度－12年度）

入局者数と本院での研修期間（月数：平均値）

年 度	9年度	10年度	11年度	12年度
入局者数	1人	3人	4人	1人
研修期間	12ヶ月	12ヶ月	12ヶ月	12ヶ月

b. ローテート方式研修の実績

平成9年度：1人、研修した他科名：第1内科

平成10年度：3人、研修した他科名：第2内科

平成11年度：4人、研修した他科名：第2内科

平成12年度：1人、研修した他科名：第2内科

2) 医員の受入れ状況（対象期間：平成9年度－12年度）

年 度	9年度	10年度	11年度	12年度
採用者数	0人	0人	0人	0人

(3) 指導体制について

診療ならびに研究テーマからグループ化し、チーム医療を行いつつ質の高い医療を実現するためコミュニケーションを重視している。

(4) 研修の評価について

卒後研修の評価項目に従い、グループ長と科長の下で評価している。

(5) 関連研修施設の現状

- 1) 天心堂へつぎ病院
- 2) 長門記念病院

(6) 臨床教授

なし

(7) 認定医・専門医・指導医の習得状況（平成9年度－12年度）

- 1) 日本内科学会／認定医1名、指導医1名
- 2) 日本心身医学会／認定医1名、指導医1名
- 3) 日本臨床薬理学会／認定医5名、指導医3名
- 4) 日本麻酔学会／認定医1名、指導医1名

(8) 学会認定施設の状況

- 1) 日本心身医学会認定施設

2) 日本臨床薬理学会認定施設

※今後の課題と改善策

- ・遺伝子多型の診断
- ・プライマリーケアの充実

2. 臨床医学研究の現状と評価

(1) 臨床医学研究の目標

- 1) 臨床薬物動態と合理的薬物投与計画法
- 2) 薬物相互作用
- 3) ストレス病の薬物治療と心理療法
- 4) 臨床薬効評価法と臨床試験

(2) 研究スタッフ

教授 1名、助教授 1名 講師 1名、助手 1名
 実験助手 (非常勤職員を含む) 1名
 事務職員 (非常勤職員を含む) 2名

(3) 研究領域と研究課題 (対象期間：平成9年度－12年度)

主な研究課題名

- 1) 抗不安薬の臨床薬理学的研究
- 2) ワープロ入力を指標にした精神薬理学的研究
- 3) 強心薬の臨床薬理学的研究
- 4) 薬物相互作用に関する臨床薬理学的研究

(4) 博士 (医学) の学位の取得状況 (平成9年度－12年度)

年 度	9年度	10年度	11年度	12年度
取得者数	1名	名	1名	1名

(5) 学会、研究会活動 (シンポジウム、特別講演、学会役職等)

年 度	9年度	10年度	11年度	12年度
学会発表 (国際)	2回	4回	3回	2回
(国内)	9回	14回	11回	12回
(地方)	0回	1回	5回	3回
(司会・座長)	3回	4回	3回	5回
シンポジウム特別講演等				
(国際)	0回	1回	0回	0回
(国内)	9回	13回	10回	16回
(地方)	1回	3回	2回	2回
(司会・座長)	3回	3回	2回	2回

学会役職 (評議員、理事等) (平成9年度－平成12年度)	
日本臨床薬理学会	中野 重行 (評議員/CRCの育成・認定に関する委員会委員長)
日本心身医学会	中野 重行 (評議員)
日本臨床精神神経薬理学会	中野 重行 (理事)

(6) 研究論文 (英文、和文) (平成9年度-12年度)

- 1) Umetsuki MH, Kotegawa T, Nakamura K, Nakano S, Nakatsuka K: Temporal variation in the effects of ophthalmic timolol on cardiovascular and respiratory functions in healthy men. *J Clin Pharmacol*, 37: 58-63, 1997.
- 2) Ieiri I, Mamiya K, Urae A, Wada Y, Kimura M, Irie S, Amamoto T, Kubota T, Yoshioka S, Nakamura K, Nakano S, Tashiro N, Higuchi S: Stereoselective 4-hydroxylation of phenytoin: relationship to (S)-mephenytoin polymorphism in Japanese. *Br J Clin Pharmacol*, 43: 441-445, 1997.
- 3) Ohdo S, Makinosimi T, Ishizaki T, Yukawa E, Higuchi S, Nakano S, Ogawa N: Cell cycle dependent chronotoxicity of irinotecan hydrochloride in mice. *J Pharmacol Exp Ther* 283: 1383-1388, 1997.
- 4) Kageyama S, Nakamichi N, Sekino H, Nakano S: Comparison of effects of acarbose and voglibose in normal volunteers. *Clinical Therapeutics* 19 (4): 720-729, 1997.
- 5) Yatsuka IY, Matsukubo S, Tsutsumi K, Kotegawa T, Nakamura K, Nakano S, Nakatsuka K: Short-term effects of nicardipine and propranolol on ocular and systemic hemodynamics in healthy Japanese subjects. *J Clin Pharmacol* 38: 68-73, 1998.
- 6) Kamberi M, Tsutsumi K, Kotegawa T, Nakamura K, Nakano S: Determination of ciprofloxacin in plasma and urine by HPLC with ultraviolet detection. *Clinical Chemistry* 44: 1251-1255, 1998.
- 7) Kamberi M, Tsutsumi K, Kotegawa T, Kawano K, Nakamura K, Niki Y, Nakano S: Influences of urinary pH on ciprofloxacin pharmacokinetics in human and antimicrobial activity in vitro versus those of sparfloxacin. *Antimicrobial Agents and Chemotherapy* 43: 525-529, 1999.
- 8) Matsuki S, Kotegawa T, Tsutsumi K, Nakamura K, Nakano S: Pharmacokinetic changes of theophylline and amikacin through the menstrual cycle in healthy women. *J Clin Pharmacol* 39: 1256-1262, 1999.
- 9) Kamberi M, Nakashima H, Ogawa K, Oda N, Nakano S: The effect of staggered dosing of sucralfate on oral bioavailability of sparfloxacin. *Brit J Clin Pharmacol* 49: 98-103, 2000.
- 10) Kamberi M, Kamberi P, Nakano S: Determination of grepafloxacin in plasma and urine by a simple and rapid high-performance liquid chromatography method, *J Chromatography B*, 741: 295-300, 2000.

(7) 高度先進医療開発研究の現状

薬物代謝の遺伝子型診断と薬物治療の個別化への応用。

※今後の課題と改善策

- ・薬物代謝の遺伝子多型の診断
- ・創薬育薬クリニックの整備
- ・薬物相互作用の評価システム

3. 診療の現状と評価

(1) 診療の目標

- 1) 患者中心の医療
- 2) 全人的医療
- 3) 合理的薬物治療：治療の個別化

(2) 診療実績（平成9年度－12年度）

区 分	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度
外 来 患 者 数	3,128人	3,120人	3,468人	3,849人
初 診 患 者 数	90人	126人	132人	163人
紹 介 患 者 数	28人	30人	46人	52人
入 院 患 者 数	6人	0人	2人	0人
平均在院日数	3.0日	0.0日	1.0日	0.0日
平均病床稼働率	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%
死 亡 退 院 率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
剖 検 率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

(3) 特殊検査・手術症例等

(4) 特殊専門外来

心身症（ストレス）外来

(5) 高度先進医療・先端医療の導入

薬物代謝の遺伝子多型の診断

※今後の課題と改善策

4. 国際交流について（平成9年度－12年度）

(1) 国際医療協力体制

なし

(2) 留学（長期外国出張）

- 1) 米国スタンフォード大学、1年間、1名
- 2) 米国、カリフォルニア州立大学（サンフランシスコ分校）、3年間、1名

(3) 外国出張（国際学会活動など）

- 1) 世界臨床薬理治療学会 2000年7月（4年に1回）
- 2) 世界薬理学会 1998年夏（4年に1回）
- 3) 世界心身医学会 毎年夏季シーズン
- 4) 米国臨床薬理・治療学会 2000年3月（毎年3月）

(4) 外国人研究者の受け入れ状況

年 度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度
目 的	研 究	研 究	研 究	研 究
受 入 人 数	1 名	1 名	1 名	1 名
出 身 国 名	アルバニア	アルバニア	アルバニア	アルバニア
滞 在 期 間	1 年間	1 年間	1 年間	1 年間
費 用 負 担	私 費	私 費	私 費	私 費

※今後の課題と改善策

5. 国内学会や研究会の開催（平成9年度～12年度）

診療科で担当した地方学会・研究会、全国規模の学会・研究会

学 会 等 の 名 称	開催期日	参加人員	発表形式	その他
日 本 臨 床 薬 理 学 会	1998年11月	2,500名	口演・ポスター	
日本臨床精神神経薬理学会	1999年10月	300名	口演・ポスター	

※今後の課題と改善策

6. 地域との関わり

診療科で担当した大分県内の研修会、研究会について

研 修 会 等 の 名 称	開催頻度	参加人員	発表形式	認定医資格継続適合の有無
臨床薬理阿蘇九重カンファレンス	毎年1回	100名	口 演	

※今後の課題と改善策

・創薬と育薬を指向した臨床研究セミナーの定期的開催

7. 診療科の特色

- 1) 薬物治療と心理社会的側面へのアプローチを組み合わせたストレス病の治療
- 2) 創薬と育薬を目指した創薬育薬クリニック（全診療科に開放）

8. 将来展望

- 1) 大分地区のみならず、九州地方に開かれた臨床試験ネットワークの構築
- 2) 創薬育薬ボランティア会を結成し、住民参加型医療の展開